

不妊治療専門施設での患者会の取り組み ～妊娠前からの心と身体づくりをテーマに開催して～

IVF 大阪クリニック ○難波 未来 澤辺 麻衣子 小松原 千暁

I. 緒言

不妊治療により妊娠した女性は、妊娠に至るまで心身とも負担や努力を重ねていることが多く、妊娠成立の喜びは大きい、その一方で不安も大きいと考えられる。特に 40 代の女性からは妊娠後に「染色体異常」や「出生前診断」など児の成長に関する質問が多く、高年齢の患者に対し妊娠・出産・育児に関する情報提供が不足し、不安なまま転院に至っている可能性が考えられた。不妊症看護認定看護師・助産師という立場から妊娠前から何か取り組みができないかと考え、当院で 35 歳以上の治療患者を対象に開催している患者会改善のためのアンケート調査を実施した。患者会で情報提供した内容が理解できたか、自分たちの生活習慣に当てはめイメージできるものであったかなどアンケートを通して検討したので報告する。

II. 実践内容

「妊娠前からの心と身体づくり」をテーマの患者会で、高齢妊娠などに関する正しい情報提供をすること、また妊娠前から取り組むことのできる生活習慣について理解してもらうことなどを目的に開催。不妊症看護認定看護師 2 名・看護師 1 名・認定遺伝カウンセラー 1 名・栄養カウンセラー 1 名で運営。アンケートは回答選択式と自由記述式とし、無記名で匿名性を保持し個人情報に配慮した。また不同意による不利益が診療に影響しないことを予め説明し実施した。

III. 結果

患者会 2 回開催の参加者合計は 22 名、平均年齢は 41.3 歳であった。知りたかったことは何ですかの質問には高齢妊娠のリスク 35%、次いで高齢出産のリスク 23%であった。最も興味があった内容としては出生前診断についてが 50%であった。参加者全員が参加して良かった・大変良かったと答えており、内容への理解度はわかった・よくわかったが 86%であった。感想では「初めて参加したが同じ気持ちを持った方とお話しできてとても良かった。改めて食事や運動など気を付けて前向きに頑張ろうと思いました。」「少し気が楽になりました。また参加したいです。」というような意見が多かった。

IV. 考察

高齢妊娠・出産のリスクや出生前診断について興味をもっている参加者が多く、各専門職が対応し、正しい情報を伝え理解してもらうことができた。マンパワーが充実している不妊治療専門施設であるからこそ、多職種が専門知識を提供できる患者会の意義は大きいと考えられる。また、ひとりではなく同じように治療に取り組む仲間がいることを実感できたことで参加者の満足度も上がっていると考えられた。

V. 今後の課題

妊娠前からの心と身体づくりを今後も意識付けできるよう、受診早期からの患者支援を充実していく必要があると共に、今後も専門職と連携し患者の希望を多く取り入れた患者会の運営に繋げていきたい。